

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人のふれあいを大切に・・・」理念の中にある、人と人とのふれあいを大切にをしっかりとしたものにしていきたい。事業所としての理念があり、目標に向かって取り組んでいる。	○ 地域での生活を送っていく中で、生活感を感じられる場にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、職員全員で読み上げている。一つ一つの言葉を実践できるように、申し送り後で読みケアの中に活かしている。	○ 月1回のカンファレンスの中において、もう一度、理念について全体で話し合い、具体的なケアについて周知徹底を図っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念が、目につく場所(ケアステ・ホール)に掲示している。	○ 月のおたより(あすかだより)に、理念を盛り込んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時、職員、入居者より、あいさつを隣近所の方にしている。庭に咲いている花をいただくことも多くなってきている。	○ 交流の場を増やす。外に出かける機会を増やしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域小学校との交流は月1回程度あり、学校行事等にも参加している。秋祭りには、数多くの獅子舞の訪問があり、入居者の方は楽しみにしている。	○ 自治会、老人会(一般の方)の人々との交流を増やしていきたい。受身の姿勢ではなく、施設側から出かけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>顔見知りの方の個人的な相談に乗っている。</p>	<p>○</p>	<p>過去には実習生の受け入れを行っていたが、現在は休止中である。施設間の実習の受け入れをしている。パンフレット等に相談・受け入れを記載したい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の理解はできている。職員での温度差はあるが、外部評価を実施する意味を理解できるように努力している。</p>	<p>○</p>	<p>職員全員、結果は見て取り組んでいるが、改善計画について検討中である。必要性を感じている職員はいるが、全員が、意義の理解しているか不明である。</p>
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での報告や話し合いはできているが、地域の方、家族はあまり介護保険に対して理解もなく、興味のない方もいる。</p>	<p>○</p>	<p>地域の人たちが施設のことをあまり理解していないため、理解してもらえるように見学ができる体制を作っていきたい。</p>
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所としては連携、関係作りを行っていると思う。ただ、地域密着型のサービスとしてはどうかは分からない。</p>	<p>○</p>	<p>関係づくりは積極的に行っている。意見等をしっかり聴き、サービスの向上にむすびつけている。</p>
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所としては、必要なケースの場合、対応できているが、職員はほとんどの理解していない。</p>	<p>○</p>	<p>勉強会等開き全員に理解してもらおう。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>申し送り、勉強会にて報告し、徹底はできている。常に管理者、職員はケアの中に、虐待が隠れているという意識を持ち、注意を払っている。</p>	<p>○</p>	<p>申し送り、勉強会での報告を継続していきたい。虐待を発見時には、職員全員で話し合い、対応したい。無意識に虐待となっていることがあると、全員で話し合いを行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安、要望を聞き入れ、十分な説明、対応を行っている。	○ 契約時、解約時以外でも、話をよく聞いて、対応説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を吸いあげ、会議等で議論し、できること、できないことを精査し、日々のケアに活かしている。介護相談員との連携をとり、利用者の思いを運営に反映できるように取り組んでいる。	○ 利用者全員が満足できるように取り組んでいる。相談員の方に、意見・不満・苦情などがしっかり伝えるよう、環境作りを積極的に行っていききたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時、また、状況に応じての連絡はできている。職員の紹介なども、お便りの中で連絡している。	○ 各ユニットの責任者が面会時に挨拶を行い、報告をしている。施設長は、体調の変化があった入居者の家族に対して、当日に必ず連絡をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の機会は、十分設けられている。意見が上がってきた時、必ず職員に周知、話し合いを持ち、家族への返答ができるようにしている。	○ 今後も継続していきたい。常に、家族に声かけをしていきたい。本当の気持ちを言っていただける雰囲気作りが大切と実感している。少しずつ信頼していただける家族も増えてきている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は十分に聞いている。業務終了後、話し合う時間を設け、自由に話し合える雰囲気作りをしている。	○ 今後は、運営者とも話し合いの場面を作っていきたい。管理者と職員との話し合いはできているが、結果が出ていないことがある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整を努めている	状況の変化、要望に対しては、柔軟に対応できている。	○ 時間を確保し、話し合いが取れるように勤務体制を作っていきたい。職員同士での話し合いで対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>まれに異動、離職の場合もあるが、入居者には影響が出ないよう、十分配慮していきたい。馴染みの職員がいなくなることで寂しさ、不安を訴える入居者もいる。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>働きながらのトレーニングはできていないため、トレーニングできる時間、環境作りをしていきたい。施設側からの参加できる環境作りを積極的に取り組み、多くの職員のレベルアップにつなげていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>他施設の職員とのネットワーク作りを検討していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>今後も継続し、職員のストレス軽減に努めていきたい。(個々で解決している方が大半)</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	<p>資格取得、研修実施日、内容等は、職員に周知している。積極的に自分をアピールできる雰囲気作りを行い、少しでも向上心を持って働けるような職場作りを目指したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と話し合い、希望を聞き、少しでも不安な気持ちを取り除くことができている。申し送りの中で気になることがあれば、面会時にあつて話ができるようにしている。	○ 本人の意見、希望を、もう少し尊重していきたい。なかなか本人から言葉を聞くことができないため、少しの言葉や表情から情報を収集し、全職員に周知し、信頼に結びつけたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との信頼関係は築けている。常に声かけし、話がしやすい雰囲気をつくっている。	○ 話し合いが気軽にできる窓口作りを心がけている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何か必要としているかを十分に把握し、対応している。時間をかけ、話し合いを行い、安心していただけるようにしている。	○ 判断能力を身に付けるため、研修等でスキルアップをしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実施できている。時間をかけて対応している。本人の思いを大切に、こちら側からは様子を伺いながら、ゆっくりとサービスの開始をしている。	○ 他の利用者とのかかわりを大切にしている。(他者との信頼関係を築く)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	実施できている。利用者の言動から学ぶことが多く、日常生活の中で共に支えあっているようにしている。	○ より一層、入居者との交わりが持てるように、環境を整備していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	実施できている。家族の方に心配ごとや不安に思っていることはないか、常にこちらから問いかけをしている。	○ 施設の行事に参加してもらうように、お便り等で案内をする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時等に家族より話を聞き、少しでも良い関係が続くように、架け橋となっている。	○ 気軽に遊びに来てもらえるように、行事など工夫の必要がある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や人に会うのは家族の同伴、判断が必要で、直接、援助はしていない。本人からの要望があれば、家族には伝えている。	○ こちらからもつながりを作っていく機会を増やしていきたい。(電話などでお礼をいう)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しがちな方に対して、皆の輪に入ったり、トラブルなく関わり合えるよう、職員がさり気なく間に入り、橋渡しに努めている。	○ ソファにて、穏かな時間を入居者同士が仲良く過ごされるような雰囲気作りをしいきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関わりを持った方とは、会えば気軽に挨拶し、話している。	○ 気軽に遊びに来てもらえるように工夫する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から要望があれば、できる限り思いに沿えるよう努めている。要望がなくても、日々よく見て思いを見つけ、少しずつ検討、実施はしている。	○ 困難な場合には、家族より、さまざまな情報を得て参考にし、役立ていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実施できている。家族より情報を得、全職員がサービス利用状況の把握に努めている。	○ 面会時に現状報告し、また、情報も得ている。生活歴を把握するのも困難になっている。家族の方も記憶が一定でないといわれる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの現状把握はできている。(申し送り、個人記録等で)	○ 小さい事項でも自己判断せず、申し送る。個々に感じたことを話し合っ、全職員が把握するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のモニタリング、3か月一度のアセスメントを行い、計画を作成し実施している。	○ 状態変化に応じて、アセスメントを見直し、計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	できている。介護計画の期間に応じて見直している。職員から、見直しの必要性の訴えが見られるようになってきている。	○ 家族との話の中で、介護計画を作成している。家族に対しては、面会時等を利用し、要望を聞き、反映できるようにしている。本人から、常日頃を生活状況で判断している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアを記録し、介護計画に活かしている。	○	サービス実践時に気付いた点や工夫を、個人記録チェック表に記録してもらう。排泄、バイタルがメインとなった記録になっており、日々の暮らしの様子や本人の言葉の記録方法も勉強していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性については、今のところ医療面に関してのみで、往診や医療処置を受けながらの生活の継続を支援している。	○	急変時は対応を早くし、今後も継続していきたい。グループホームで、安心して生活ができるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防、文化教育機関、ボランティアとの協力はできている。	○	警察との協力は少ないため、今後働きかけていきたい。(利用者がいなくなったケースの連携など)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居してからはグループホーム対応のため難しいが、家族からの要望での対応はできている。	○	散髪など、利用者の要望で実施している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	共同しているが、現在は家族からの要望はない。	○	運営推進会議に出席してもらい、意見を参考にしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を調査し、希望に添えるように支援している。入居時、主治医が誰なのか確認を行っている。	○	かかりつけの医師を自由に選択できるようにしている。変化時、また、家族の希望時にすぐに対応できるよう連絡をしっかりとっている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の症状を理解していただいている医師に、受診できるように支援している。	○	正確な情報が伝わるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常に相談できる看護師がおり、連携している。	○	正確な情報が伝わるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の情報提供を行い、家族に対しても安心していただけるように努力している。	○	入院中も症状を把握し、いつも対応できるようにしたい。(入院中もできる限り情報収集に努めている。)退院され、グループホームに戻られた時、家族の方に安心していただけるようにしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明を行い、理解していただき、常に体の状態の把握に努め、必要に応じて対応している。	○	元気なときに話し合いを行うのは難しいが、面会時や体調が悪い時に話し合うようにしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	連携を密にして、急変時の対応がスムーズにできるように準備している。	○	医療チームとの支援方法の確認を、しっかりと行っていきたい。医療連携マニュアル等で対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	申し出があれば、できるだけ詳しく情報提供している。安心して住み替えができるように、生活が送れるようにしている。	○	気持ちのこもった情報提供をしていきたい。(詳しい情報提供、サマリー作りを行っている。)居所が変更する時、前後して関係者に情報提供を積極的に行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝の申し送り、カンファレンス等に、常に議題になり議論している。	○	言葉かけに注意をしていきたい。人としての尊厳を大切にされた対応が求められていることを再確認し、職員全員周知し、実施できるように取り組みをしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に声かけを行い、表情や全身の反応をしっかり見定めて、できる限り、自分の思いを表に出していただけるように、馴染みの中で支援している。	○	個々に合った対応はできている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添えるようにしている。職員側に合わせるのではなく、入居者に合わせたペースを大切にしている。	○	入居者の中には施設側に流れを把握し、そのリズムで暮らしをされている方もいるので、できればその方のリズムでの生活の支援を行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者と共に、その日の着る服を選んでいる。散髪は3か月に一度実施している。毎回、同じヘアスタイルにならないようお願いしている。	○	自ら、ヘアスタイルをリクエストする方もいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	限られた方になっているが、できる限り、長く続けていきたい。お年寄りの好む献立、昔の食生活を提供したり、毎日同じ食器ではなく、献立に合った容器を提供していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	個々に持ってきていただき、施設側で預かり、ご本人が希望された時、食べていただいている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	○	チェック表を活用し、(トイレ誘導時の有無の時間を記入)支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	曜日の交換を柔軟に行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○	常に状態の把握に努め、適切な対応ができている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○	全ての人に、役割をもっていただけるとのこと。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、了解した方は各自で管理している。また、家族、本人からも預かり、施設側で管理している。	○	自分で買い物に出ている。本人が申し出があれば、希望に添えるようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、入居者の体調に合わせ、できるだけ散歩に出かけている。季節を肌で感じてもらっている。	○	限られた方に固定化されているので、できるだけ全ての人（希望される方）が外出できるようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の申し出によって、自由に外出されている。（入居者の方との話し合いの中で、できた思いを面会に来られた家族に伝えている。）	○	家族の協力で実施できている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族の方に出している。（本人の写真入りで、自筆で文面と名前を書いて送っている。）	○	家族の了解を得ている方には、希望があれば電話をかけるようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問してもらえるように、常に家族に連絡をしている。	○	ゆっくりとくつろげる場所作りがしたい。（現状の空間では難しいので、居心地の良い雰囲気、環境作りを目指している。）
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時、家族には施設での拘束の禁止ということを話している。	○	施設側の意向は、原則的には拘束はしないことを周知。職員には安易な気持ちでの拘束は禁止。必要性があるとき、医師、看護師、家族との話し合いで行っている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は常にかけている。外出時、本人の希望時、穏やかな時には職員と共に出かけるようにしている。	○	見学时、契約時、入居時など、機会がある度に説明し、理解を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状況の把握ができるように努めている。日中居室で休まれている方、また、夜間帯はその方に合わせた見回りをしている。	○	入居者がどのような動きをされるか、見守りしやすい場所にいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は、保管場所を決めている。また、入居者の動き等に注意している。	○	職員が入居者の状況に合わせ、方法を考え、対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員間同志での共有認識を持つことで、事故防止に努めている。	○	ヒヤリハット等で再確認し、勉強会を行っています。今後も、事故防止に努めていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、常に対応できるようにしている。(時々、勉強会をしている)夜間時の緊急対応マニュアルがあり、周知徹底をしている。	○	職員の中には、急変時に慌てて、冷静さを欠く、不安だという方もいる。常に、初期対応時の訓練を行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の防火訓練を実施している。	○	災害が実際に発生した時、どのようなことが起きるか予測できないので、不安に訴える職員が多い。今後、運営推進会議等で検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	施設内、また、外出時に安全に気をつけているが、リスクがないとは言えないことを、入居時、また、面会時に説明している。	○ 転倒を気にされ、動きを制限される家族の方には、十分な説明をし、理解をしてもらっている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は入居者の体調把握に努め、お互いの共有として、すぐに対応できるようにしている。	○ 申し送りノートや朝の申し送り等で把握し、個別でも情報の収集に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の自己管理が難しいため、施設側で管理し、服薬時は何度もチェックを行い、服薬してもらっている。	○ 各自で服用できない方には、職員が必ず介助を行っている。薬の名前までは覚えられないが、今服薬中の薬をなぜ飲んでいるのかという知識を持ってもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分に注意し、乳製品が週3回摂り入れられており、毎日体操する機会を設けている。	○ 医療より出ている薬、また、運動、食事等で、気持ちよく排便できるように支援している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一日3回の口腔ケアが必要だが、特に、夕食後の口腔ケアについては必ず行い、清潔保持に努めている。	○ 自己でできない方にハミガキ、うがいが困難な方に対しては介助支援をしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを毎回行い、食事量が減少されている方には調理法や医師に相談をしている。	○ その方に合った量を把握し、できる限り、気持ちよく食事ができるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがあり、職員も十分に気をつけている。インフルエンザの予防接種は、入居者、職員全員が実施している。必ず、手洗いを実施し、タオルの共有は禁止している。	○	感染症に対して、勉強会を定期的開催していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生に十分配慮している。乾燥機を使用し(使用後の調理器具等)冷蔵庫の中の期限切れ等のチェックを常に行っている。	○	水周りを清潔に気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は他の事業所と共有しているため、親しみやすいとはいえない。エレベーターの出入口等は、できる限り、温かみのある場所を演出している。	○	植木鉢等を置き、明るい環境作りを目指していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい雰囲気のある共有の場所作りに努めている。必要でない時はテレビは消し、全員で共有の時間を過ごしている。(テレビの音量は上げないように心がけている。)	○	自由にテレビが見られるように心がけている。ご飯を炊くことで匂い、また、一部の方の食器を洗う音などで、少しは生活感を感じてもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファに自分の居場所を作り、穏やかに過ごされている。お互いにゆずり合って座っている。	○	座る場所が固定化し、トラブルになることがある。解決方法を検討中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学时、入居時、面会時の機会に、馴染みのものがあれば持ってきてもらうようお願いしている。	○	施設側で用意された備品のため、殺風景な統一した個性のない居室になっている。もう少し生活感のある、施設にしていく予定である。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	において配慮している。(消臭剤等使用)不快な臭いは気分を害されることもあるので、常に換気している。(朝、起床されたときには必ず窓を開ける)	○	換気に注意を払っている。施設全体として、芳香剤などの設置を検討中である。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下、トイレに手すりが設置してあり、入居者にあつた使用をしている。	○	身体能力の合った安全環境作りを、個々に対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の体調に合わせている。混乱、失敗をとがめることなく、誰でもあることと受け入れ、不安を取り除くように職員が話し合っている。	○	混乱、失敗があつたときは職員が話し合い、統一したケアができるようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気に良い日は、洗濯物を外に干しに一緒の出ている。(エレベーターで1階に下りていく)	○	ベランダの活用ができるように、働きかけたい。

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は、日ごろからあまり会話が難しい入居者の方であっても、顔を合わせるだけで安心感が生まれるように努力をしています。(コミュニケーションがうまく取れない方でも、日ごろからやりとりを積み重ねることによって、新しい関係ができることに期待、自信を持ってかかわる)その人の笑顔や心が和む瞬間を捉え、そこに働きかけるようにしています。私たちは、家族の方から大事な命を安心して任せられる施設とっていただけるグループホームを目指しています。